

## 有効需要原理

社会の総需要が総生産に一致するときの総需要を「有効需要」という。現実の GDP は、有効需要水準に定まる傾向がある。

### I. 国民経済計算上の等式（復習）

#### A. 閉鎖経済

1. 総生産と総支出： $GDP = C + I$

2. 国民貯蓄と純投資支出： $S = I - D$

a. 国民所得と支出： $NI = C + (I - D)$

(1)  $GDP = GNI$

(2)  $NI = GNI - D = GDP - D$

b. 国民貯蓄： $S = NI - C$

(1)  $NDI = NI$

(2)  $S = NDI - C$

#### B. 政府部門を考えた場合

$$C = C_g + C_p, \quad I = I_g + I_p$$

$$GDP = C_p + I_p + G, \quad G = C_g + I_g$$

### II. 事前と事後

#### A. 事後の関係（国民経済計算）

$$I = S + D$$

国内投資支出 = 国民貯蓄 + 固定資本減耗

#### B. 事前の（計画された）投資と事後（実現した）の投資のあいだの開き

##### 1. 事後の投資が事前の投資より大きい場合（計画されない在庫増）

$$I_a < S + D (= I) \Leftrightarrow C + I_a < C + S + D = NI + D = GDP$$

総需要 ( $C + I_a$ ) < 総生産 ( $GDP$ ) 需要不足

##### 2. 事後の投資が事前の投資より小さい場合（計画されない在庫減）

$$I_a > S + D (= I) \Leftrightarrow C + I_a > C + S + D = NI + D = GDP$$

総需要 ( $C + I_a$ ) > 総生産 ( $GDP$ ) 需要超過

## III. GDP ギャップ： 潜在的 GDP と現実の GDP の差

## A. 潜在的 GDP

1. 資源の完全利用
2. 資源の有効利用（パレート効率性）

## B. 在庫変動と GDP ギャップの発生

## 1. 景気後退期

出荷減と在庫増 → 在庫率増 → 注文減 → 生産縮小  
→ GDP ギャップ拡大

## 2. 景気拡張期

出荷増と在庫減 → 在庫率減 → 注文増 → 生産拡大  
→ GDP ギャップ縮小

## IV. GDP の決定

## A. 総生産と総需要の均衡条件

## 1. 消費関数

## a. 家計部門の消費関数

## (1) 家計部門の可処分所得と消費支出の関係

可処分所得の増加が消費支出に与える影響

可処分所得の増加 → ほぼ同じ率での消費支出の増加

自律消費支出： 可処分所得の水準と独立に定まる消費支出

## (2) 消費性向

$$\text{限界消費性向} = \frac{\text{消費支出の増分}}{\text{可処分所得の増分}} \quad (\text{日本の場合, 通常は } 0.8 \text{ 程度})$$

$$\text{平均消費性向} = \frac{\text{消費支出総額}}{\text{可処分所得}} = \frac{\text{自律消費支出}}{\text{可処分所得}} + \text{限界消費性向}$$

- ・ 平均消費性向は限界消費性向より大きい。
- ・ 平均消費性向は可処分所得が大きいほど小さい。

## b. 経済全体の消費関数

$$C = C_0 + cY, \quad C_0 > 0, \quad 1 > c > 0$$

$C$  : 国民消費支出  
 $Y$  : GDP  
 $c$  : 限界消費性向  
 $C_0$  : 自律消費支出

## 2. 均衡条件

## a. 総需要関数

$$AD = C + I_a = cY + A$$

$A = C_0 + I_a$  : 自律的需要 ( $GDP$  の水準と独立に定まる需要)

b. 総需要を  $GDP$  に一致 ( $AD = Y$ ) させる  $GDP$  の水準

$$Y = cY + A \quad \rightarrow \quad Y^* = \frac{1}{1-c} \cdot A = \frac{1}{1-c} \cdot (C_0 + I_a)$$

例  $c = 0.8$ ,  $C_0 = 10$ ,  $I_a = 90$

$$Y = 0.8Y + 100 \quad \rightarrow \quad Y^* = \frac{1}{1-0.8} \times 100 = 5 \times 100 = 500$$

## B. 均衡の安定性

1. 現実の  $GDP (Y)$  が均衡の  $GDP (Y^*)$  より大きい場合

$Y > cY + A$  : 需要不足  $\rightarrow$  在庫増  $\rightarrow$  注文減  $\rightarrow$  生産縮小

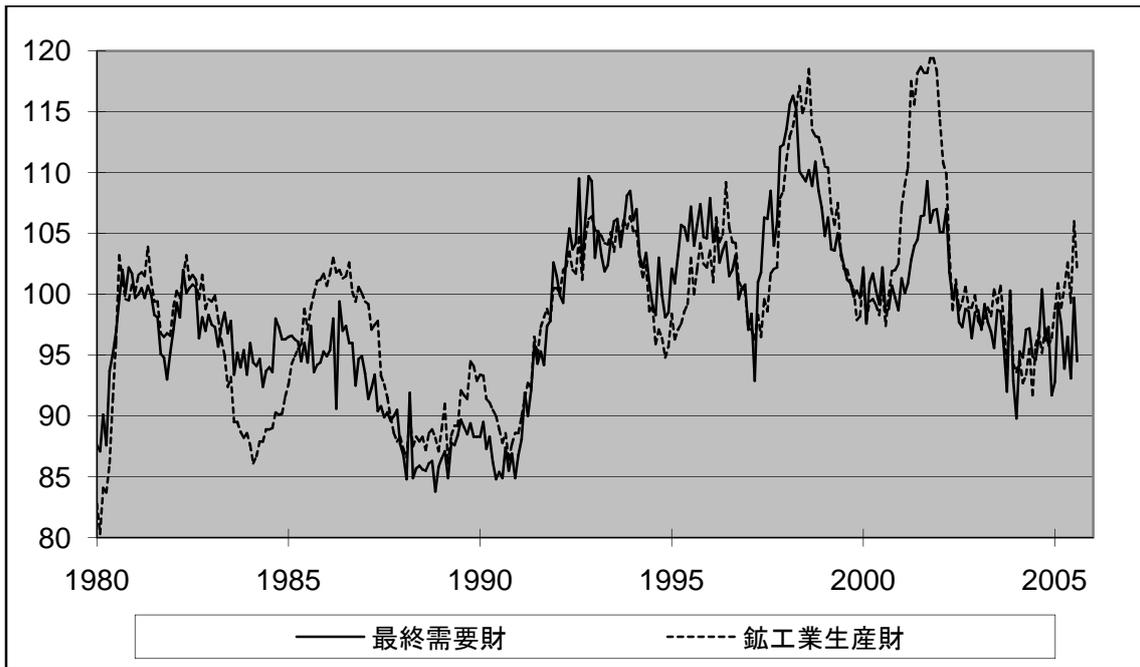
2. 現実の  $GDP (Y)$  が均衡の  $GDP (Y^*)$  より小さい場合

$Y < cY + A$  : 需要超過  $\rightarrow$  在庫減  $\rightarrow$  注文増  $\rightarrow$  生産拡大

## 参考文献

教科書 . 第 4 章 , とくに 82-88 , 92-94 ページ .

在庫率指数 (2000=100)

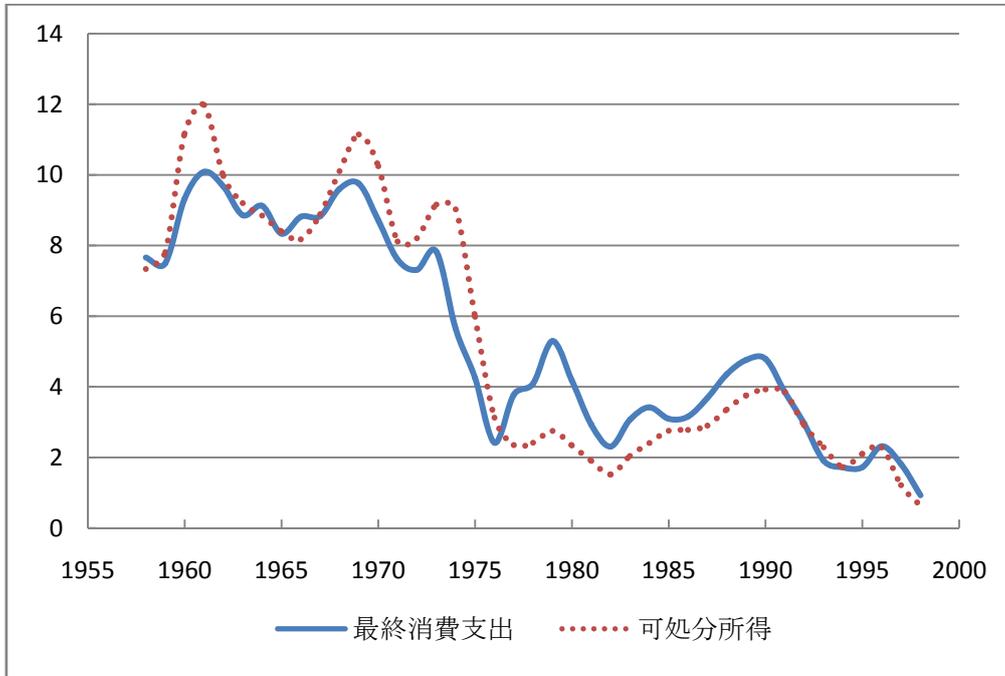


$$\text{在庫率} = \frac{\text{期末在庫}}{\text{期間中出荷額}}$$

家計部門の実質消費支出と実質可処分所得の関係（1995年基準）

3年間移動平均後対前年比（%）

68SNA, 1955—1998



限界消費性向

